7 六部塚

中仙町鑓見内と大曲市四ツ屋と境する国道西側に小高い塚があり、これを六部塚といっている。塚の上には小祠があって、その中の碑石には「日輪當千妙典奉納塔」と刻されている。昔全国六十六か所の霊場を巡礼してお経を納め、鑓見内を最後の地と定め附近の部落を経文をとなえ、打鉦をならして村々の安穏と無病息災を祈り続ける尼僧があった。

だが村の中からは災害は絶えず村の人々の不幸を払い除くことはできなかった。尼僧は更に高い祈願に入り、自から墓穴を掘り、村人から土をかけてもらい、生き埋めの形となって荒苦業に入った。土の中からは七日七夜鉦の音が聞えたと伝えられている。村人はその塚に石碑を立て供養した。この尼僧は野中の杢右エ門の一族であるとも伝えられている。元治のころ、鑓見内の利助(高橋)という人がこの地を開田のとき塚のふもとから高さ七センチ、直径二一センチの伏せ鉦を発掘しているが、これは寛文十三年(一六七三)癸丑天林鐘吉辰苅和野川口阿弥陀堂什物体西と刻されている。六部塚、経塚等の貴重な資料ということができる。